

## 情熱と柔軟さ　そして学び続けること

専修大学商学部特任教授

齋藤博志

## 一、教職志望の学生から

私は、この春退職し、4月から教職を目指す学生の指導を始めた。先日、教職を目指す大学一年生に「教員の資質・能力」について必要な力は何かをテーマに授業を行った。学生は、個人で考えたり、グループで意見交換をしたりして「教員の資質・能力」について考えた。その結果は、まず一番に「コミュニケーション能力」を挙げた。そして、「熱意」・「教科の専門性」・「人間性」が上位四つに入った。

また、彼らに、「なぜ教職を目指すか」を尋ねてみると、多くの学生が、「自分の学校生活や人生に大きな影響を与えた先生に巡り合ったからだ」と言う。学生が出会った教員は、繊細な観察力を持ち、生徒に寄り添い支援していくコミュニケーション能力があったと言える。

教員は、使命感や情熱があるからこそ、日々子供の成長に関わり、子供とのコミュニケーションを大切にしているはずである。

## 二、現場の管理職から

現職当時、仲間の校長たちと会う度に新採用教員の課題が話題となった。新採用教員の気になるところは、次のようなところである。「①幅の広いコミュニケーション能力が足りないこと。②課題に対する解決策として『正解』を求めること。③思考力を高めることは、話し合いをすることだと思っていること。④保護者・地域との対応に配慮が不足していること。」などである。

これらの課題は、新採用教員の社会経験の無さからくることは否めない。また、新採用教員は、「学校は生徒にとって答えがあるところだが、教師にとっては答えがない。」ということを理解していないと考える。だから、教員は、情熱だけでなく、その仕事の多様性を理解し、柔軟に物事に取り組んでいくことが重要である。新採用教員は、周囲のベテラン教員から、彼らの持つ多種多様な対応能力を学び取ることが必要である。特に、気配りや配慮などは、相手の立場を理解できて、初めてできることである。そのためには、教員として相手を思いやり、柔軟に対応する力を持つことが大切である。

## 三、自分の教員人生の振り返りから

私の教員人生は、養護学校義務化の年（昭和54年）に施設内の訪問学級の担任としてスタートした。生徒は、一人一人障害の種類も程度も違う。また、成長・発達も一律ではなく、度合いもまち

まちであった。先輩教員が、「元氣・根氣・呑氣」で子供たちとかかわることが必要であるとよく話してくれた。私は、特別支援教育を現場に出でから学んだと言える。

二校目は、昭和50年代後半、中学校は荒れた時代の真つただ中、それでも私が赴任した学校はまだ落ち着いていた。その時の校長先生は、朝礼で生徒たちに「『元氣・根氣・勇氣』を君たちは持っているにない。」とよく語っていた。それは、教員に子供以上に「元氣」で、「根氣」よく、「勇氣」をもって子供たちと向き合つて指導しなさいと言つていたように思う。私には、学習指導・生徒指導を初歩から学び直す時期であった。

三校目は、都内でも有数の生活指導困難校であった。生徒にも保護者にも地域にも受け入れられる教員であることが要求された学校である。苦勞も多かつたが、胸襟を開き、生徒と一緒に汗をかき、時に涙して活動した。朝早くから夜遅くまで授業規律の徹底・生活指導・部活指導等に取り組み、生徒・保護者・地域から信頼を得た頃から学校は変わつていった。この頃の私は、どのような時でも生徒と向き合つていた時期であった。

四校目は、ニュータウン開発でできた新設校だった。各地域から集まつた生徒（保護者も同じ）たちが、学校を創つていく。学校づくりと地域づくりが同時進行である。中一・二の二年生各クラスの小規模校であった。教職員数は少ないが、

それぞれに多様な学校経験をもち、この学校にかける思いは人数分あつた。私は、教務主任として学校づくりに努力した。そこで、学校づくりの生みの苦しみと楽しさを経験した時期であつた。

「異動は、最大の研修である。」とよく言われる。私自身の経験からも本当にそうだと思う。異動によつて、学校の組織や雰囲気・生徒・保護者、地域の実態が変わる。このような地域的な変化とともに異動を繰り返す中で時間軸の変化（時代の変化は社会の変化をもたらし、保護者や生徒の意識も変化する）もある。異動の度に、これらの変化・課題への対応を求められ、教員は一回りも二回りも成長する。それは、教師としての情熱と柔軟さ、学び続ける志があればこそなし得ることである。

最後に、三十八年間の教職人生から、教師に必要なことは何かと問われれば、「教育課題の解決のために、情熱と柔軟さをもち、日々学び続けること。」である。そして、「いつも謙虚さを忘れないこと。」だと思ふ。

学校現場の先生方には、新学習指導要領で示された「チーム学校」をつくるために、一人一人の教員が「情熱と柔軟さをもち、日々謙虚に学び続ける教員」として教育実践を進め、学校改革・教育改革を推進してほしい。

私も「学び続ける教員」として情熱と柔軟さをもち、明日の教師を目指す学生の指導に励みたい。